

PARA Community

in TATEYAMA

1995 . Vol . 4

・特集 ツアーについて考える！！

／ツアーについて考える

／ツアーレポート

・お知らせ

／CLUB Information / SCHOOL Information

発行者 : ハミングバードPGC

編集者 : ハミングバードPGC広報委員会・会報編集部

投稿受付 : JMB立山パラグライダーズスクール内

ハミングバードPGC事務局まで・・・

特集・ツアーについて考える！！

フライトツアー、見知らぬエリアや有名なエリア、景色抜群コンディション抜群のエリアなど様々なフライトエリアからお好みをチョイスして気の合った仲間とわいわい言いながら計画・そして実行。エリアではフライト以外の楽しみもあって行くだけでも楽しい。クラブでも毎年ツアーが計画されているが、今年は事故やマナーの問題で自粛されている。

今回は、ツアーの在り方についてじっくり考えてみようと思う！！

フライトツアーについて考える！！

フライトツアーって何？

フライトツアーについて知らない人はいないだろうが、ここではフライトツアーとは一体何なのかを検証し、定義を導いてみたいと思う。

フライトツアーと言うのは、一般的には複数のパイロットが連れだって、普段飛んでいるエリア以外の場所へ飛びに行くことである。それが日帰りであろうが泊まりであろうが国内・海外の別は一切問わない。では、1人で飛びに行く場合はツアーではないのか？という疑問も生じるが、ここではあえて複数で行く場合をツアーとして考える。理由は、ツアーと言うからには明確な計画（スケジュール）が存在するはずだ。そうしなければ複数のパイロットと行動を共にすることは困難である。律儀なパイロットは1人で行動する時も明確なスケジュールを立てている人もいるだろうが、殆どのパイロットは余り単独行動はしないだろうし、していても計画などその時々で変わるからと立てていない、いわば“気まま一人飛び”状態だ。

フライトツアーの定義

フライトツアーとは、複数のパイロットによるホームエリア以外へのフライト目的の遠征（近くでも）である。その形態は日帰り・泊まり・国内・海外等の条件的制約はない。

フライトツアーのメリット・デメリット

フライトツアーには様々な楽しみ方があり、これは行ったことがあるパイロットにしか判らないだろう。ではどんなメリット・デメリットがあるのだろうか？

メリット

1. 知らないエリア（いつもと違うエリア）で飛べる

同じところで飛んでいると、そこがどんなに素晴らしいエリアであってもしまいには飽きてくる。別の場所で飛びたくなるのが人情。それを叶えるのがツアーなのだ。初めてのエリアで飛ぶ時は、初飛びの時と同じ緊張感が全身を支配するのをあなたは感じた筈だ！！

2. 己の技術（フライトスタイル）を再確認出来る

日頃ホームエリアばかりで飛んでいると、サーマルポイントやコンディション、風の具合やフライトコースまでもが頭の中に全てINPUTされ、ランディングアプローチなどはまるで旅客機のオートパイロットの如く体が覚えたブレーク操作で正確に進入、その時あなたの頭脳はどの程度状況判断を行っていますか？それを確認出来るのがツアーなのです。いつもと違うランディングに降りる時、ましてやさほど広くもない場所なんかだと日頃の成果が良くも悪くもそのまま出ます。サーマルポイントを探る場合や条件の読みなんか知らないエリアで出来て初めて会得？したと言えるでしょう。そうそう、テイクオフについても同じ。クロスでなけりゃ出られない風の中で地元のスクール生はどん

どん出ていくのに自分はクロスが出来ないばかりに恥ずかしい思いをした・・・なんて人もいるのでは？

3. アフターPARRAでの意外な一面

ツアーの良いところはフライトに限ったことではない。アフターPARRAでの温泉で日頃見られないあの人の意外な一面を見たり、「やっぱこの人そのまんまの人やった」なんて改めて思う事もある。でも、一番楽しいのは今日のフライトについて語り合いながら食事をしたり酒を飲んだりする事でしょう。これに勝るツアーの楽しみ方はない！と思うのは私だけでしょうか？

デメリット（困ること）

1. 天候次第、風次第

こういったスポーツだから仕方がないのだが、行ったはいいが風がダメで飛べない、天候に恵まれずに飛ばないで帰ってきた、なんてことも多い。これは幹事になった人の采配によってはデメリットにならない場合もあるが、出来れば飛びたいもんだ。こんな時に無理して飛ばうとして事故や事件が起きてしまう。とても飛べそうにない風の中を無理矢理テイクオフしてバックして行った事や、必死の誘導で無事ランディングした時のことを私は今でも忘れない！！

2. 隣は何をする人ぞ

日頃仲の良い者同士の場合でも、意外な事がツアーでは起こる。はしゃぎすぎてテンションHiのまま飛んで、特攻隊の如く攻めまくり、挙げ句の果てが山沈。こうなるとツアーメンバーは勿論のこと、エリアや地元の方々にも迷惑を掛けるだけでなく、自分のクラブやスクールにも迷惑を掛けることになる。こう言った事を防ぐために、事前によく打ち合わせをすとかリーダーを決めてその人に従うとか、何か対策を打った方がいいだろう。信用してない訳ではないが、見知らぬ土地でアクシデントを起こす前に、可能な限りの準備をするべきだろう。

3. 機体・装備はよくチェック

日頃ホームエリアで飛んでいると、機体や装備のチェックはやっているようでやっていない。それでも、ホームエリアならアクシデントがあっても何とかなるだろうが、ツアー先ではそうはいかない。しかも、こういう時に限ってアクシデントは起きるのだ。日頃と違う場所で行動するからこそ十分な準備が必要だ。

勿論、それは日頃の心がけ次第ではあるが・・・。

4. デメリットとはリスク管理

1～3までのデメリットは、ハッキリ言ってリスク管理だ。人は普段と違う環境に置かれると日頃の半分も力が出ないもんだ。いろんな油断も生じるし、不安もある。そこから事故やアクシデントが始まるのだ。ツアーでは常に危険と隣り合わせだと考えなければならない。フライト以外でもそう。そう言った心がけがリスクを減らす第一歩だろう。

フライトツアーを計画しよう！！

さて、メリット・デメリットを見たところで、フライトツアーを計画する際の注意を見ていこう。要は準備次第ではデメリット（リスク）も減少することだし・・・。

メンバーを募る

計画するのに何もかしこまった事は必要ない。日頃わいわい言っている仲間で話しているうちに盛り上がって来たらそこから話を進めればいい。でも、基本的にはまずメンバーを決めよう。誰が行くかによってこれからの話の展開も変わってくる。（誰が中心で話を進めるか、等）メンバーの中にツアー慣れした人や頼

れる先輩を加えるのがベターだ。決して初心者（P証取り立て、ツアー未経験者）だけで行動しないようにしてもらいたい。

責任者を決める

メンバーが決まったら、責任者を決めよう。その人に幹事になってもらってもいい。とにかく誰が中心になっ準備を進めるかを決めてしまおう。責任者には、出来るだけフライト経験豊富でいろんなエリアも飛んだことがある人になってもらおう。とにかく信頼出来る人になってもらえば間違いはない。これだけでリスクは大幅に減らせる。

行き先を決める

次はいよいよ行き先だ。これはみんなの希望をなるべく取り入れて決めた方がよいだろう。その際に、メンバーの技量に合わせたエリアをチョイスしよう。いきなりテイクオフやランディングの難しい所ではリスクは増すばかり。季節や万一飛べなかった事も考えて周辺地域の観光プランも併せて検討しよう。それらの条件を1つ1つクリアしていき、最終的にエリアを決定しよう。

スケジュールを決める

次はスケジュールだ。このあたりになるとツアーコンダクター的な仕事になるので世話好きな人でないと勤まらなれないかもしれない。やってくれそうな人に頼もう。スケジュールは基本的な日程から行程に至るまでなるべく細かく決めよう。これと同時に進行で宿の手配やエリアへの予約や問い合わせを行う。エリアの情報収集は必ず行おう。（出来ればエリアの地図なんかも用意した方がいい）あとは、予算を決めてこれらをまとめればOKだ。

装備の準備

フライトするための装備やツリーランセット、レスキュー等をチェック。万一に備えよう。とにかく事前の準備いかんによってリスクが増減するのだから、少々やりすぎと思うくらいが調度良いかもしれない。この時、参加者名簿を必ず作っておこう。氏名、住所、電話番号、P証No.、血液型や緊急連絡先を記入しよう。これを持っていれば万一の場合にも対処出来る。

最終確認

メンバー全員に、本当に参加可能か、問題がないかを確認する。エリア、宿泊先にも最終確認をする。後は、天候に注意していればいい。

フライトツアーでの注意！！

準備が整ったら後は出かけるだけ。いざ出発！！移動中にもいろんな楽しみ方があるようですが、今回は割愛させていただき、実際にエリアに着いてからの注意事項について見ていこう。

受付・入山チェック、ミーティング

エリアに着いたらまず受付・入山チェックだ。この時エリアルールや注意事項なんかをショップの人なんかを確認しておこう。郷に入れば郷に従えだ。それから印鑑を忘れずに！！受付の時に手を汚してしまうはめになってしまう。入山チェックが済んだらテイクオフへGO！ってちょっと待って。ランディングの確認に行かんにゃあかんちゃ！！飛んだら必ず降りるのだから、自分の降りる場所は必ずフライト前に確認すべし。この時、ランディングの広さ、地上の状態、周囲の障害物、地形、吹くであろう風向、アプローチ方法等を考えイメージしながらチェックしよう。次に見るときはテイクオフか空中からになるのだから・・・。

ミーティング

ランディングの下見が終わったらいよいよテイクオフへと向かう。ランディングでもミーティングをした

が、テイクオフでもミーティングを行う。ここで最終ミーティングとなるので、確認すべき事は全て確認しておこう。ここでは主にフライトについての注意事項、危険個所の確認、それぞれの連絡方法などを打ち合わせる。中にはぶっとんでいって行方不明になる奴もいないではないからね。後は、他のフライヤーに迷惑にならないように準備して、自分の描いたフライトプランを実現すべくテイクオフするだけだ。

最後の決断

やっと自分のテイクオフ順番だと思ったら、風が強くて飛べそうにない。でも、せっかく来たのだから何とかかなと思ったあなたは甘い！！そういう時こそ慎重に判断すべきである。ここで強引にテイクオフしてスタ沈くらいで済めばまだしも、とんでもない事態にもなりかねない。自信がないなら思い切ってやめるべきだ。これが最後の決断。また、長旅で疲れて体調が悪い場合もよく考えてフライトするかどうかを決めて欲しい。

Fun to Flyで良いツアーを！！

これまで書いてきた事は常識的なことばかりですから、みなさんも実践されていることでしょうか。こう言った準備や行動があつてこそ、素晴らしいフライトツアーが出来るのではないのでしょうか？

なにはともあれ、ツアーって楽しいから皆さんもどんどん出かけてみてはどうでしょうか？

フライトツアーレポート

王子ヶ岳ツアーレポート

Report:井上 文一

日時：96年2月9日(金)～12日(月)

参加者：中谷、押田、村上、大和、富田、高松、寺島、藤井、津田、坂田、井上(11名)

昨年秋、ツアーの好きな者でサークルを結成(ツアーサークルらいちょう)、11月の高山スカイパーク&尾神岳に次いで2度目のツアーである。

9日午後9時30分、小杉(高松自動車)に11名集合、ワゴン者2台で折しも天候は冬型が強まり雪模様、高速道路も通行止めが出る中、一路岡山県へ向けて出発。途中、雪のため3時間立ち往生した所もあったが、北陸道～名神道～播但連絡道～山陽道～瀬戸中央道と高速を乗り継いで、13時間かかってようやく王子ヶ岳にたどり着いたのが10日の午前10時半過ぎであった。

王子ヶ岳は、標高200mと高くはないが、瀬戸内海に面しているため、風は素直なりッジ風である。また、山は奇岩、巨岩で形成され瀬戸内海を初め瀬戸内の島々が一望できる素晴らしいロケーションであった。

早速、事務所へ行き岡山県PGフライト協会の平沼会長にお会いしたが、今日は冬型の影響で風が強くてフライトは無理とのことであった。残念！

平沼会長は5年程前、立山へもよく来られ、扇澤先生もよく知っているとのことで、我々を快く迎えてくださいました。

今日はフライトは無理とのことであり、急遽予定を変更し倉敷観光をすることにした。(いつもなら温泉ツアーになるはずだが?)

夜は飲めや歌えの大宴会になる予定であったが長旅の疲れもあつてか早々に眠りについた。

11日快晴、風は昨日より弱いようである。飛べるぞ！！食事も早々に出発。まず、海岸をみんなで歩いてLD調査に向かう。LDの幅は20m、長さは40～50mの砂浜である。

LD調査を終えTOへ向かう。時間も早いせいか地元の人はまだ誰も来ていない。素晴らしい瀬戸内海を

バックに全員で記念撮影。

入山チェックの後、エリアの地形・T Oの位置・風の状況等を見てフライトプランを立てていたが、風がだんだん強くなってきた。4～5mのアゲインスト。今のうちに出たいが、地元の方は10時頃にやっと来た。ダミーが2人出て、いよいよ当メンバーがテイクオフ。エース押田が出て高松・村上・寺島・中谷・坂田と続いた。もう5mは(M A X 7～8mは充分あった)越えていた。みんなでサポートしてようやくテイクオフする状況であった。この状況から残りの者は飛びたかったが、勇気をもって中止することとした。風は海風なので、テイクオフしてしまえば、尾根に近づかない限り楽しいフライトであったようである。(私はフライトできなかった)我々はレストハウスから指をくわえて羨ましそうに見ていた。

2Km程の幅で行ったり来たり、高度は200m程しかゲインしなかったようであるが、瀬戸内海を眺めながら、海の上もフライトして立山では経験出来ないフライトであった。

ちょっとトラブル(強風の時は尾根に近づかないようにしよう)があったが、怪我もなかったのでよしとしよう。とにかく2～4時間近くの羨ましいフライトであった。

宿の風呂から瀬戸内海に沈む夕日を見ながら、明日は必ず飛ぶぞ!と心に誓った。この夜は昨日とちがってパラ談義に熱中し、盛り上がった宴会であった。

12日晴れ、雲が少し出ている。しかし風がない。これは良いのか悪いのか、今日は帰らなければならないの午前中だけしかない。

T Oへ行って見るがやはり風は弱い、そして時々フォローで最悪。しかし、昨日飛べなかった人を優先に準備に入った。昨日飛んだ人は、T O、L Dに別れてサポートに回ってもらった。地元の方2人の後、いよいよ私の番である。しかし、フォローからサイドと最悪、しばらく待って無風でテイクオフ、300mの幅で3回ターンしたらもう海岸で3分程のあっけないフライトであり、残念であった。藤井・富田・津田・大和さんも無事フライトを終えた。12時、平沼会長の見送りを受けて帰途に着いた。

今回のツアーを通して、フライトはそれぞれ違ったが、得るものはあったとの声も聞かれ、また会員の親睦も深めることができた。

帰りの車の中では、もう次回はどこへ行こうかと盛り上がっていた・・・。

ツアーサークル“らいちょう”ですか。いいですね!これからも安全で楽しいツアーを続けて下さい!!
みなさんも、仲間に入りたかったら、井上さんに問い合わせさせてみてはいかがでしょうか?

特設・P A R Aフライヤーのための・・・

mini アマチュア無線講座 Q & A

最近、無線についての話題があまりありませんでしたが、一部の方々から質問や注意事項を載せて欲しいとの意見がありましたので、今回は“特設”という形で掲載させていただきます。

Q . 1 レピーターとは一体何ですか?

A . 1 レピーターというのは、簡単に言えば“中継局”と思ってもらえばいいでしょう。無線の場合は、ある周波数で送信(434.12MHz)した電波をレピーターが受信し、その内容を中継して別の周波数(439.12MHz)で送信する、といった感じです。最もイメージしやすいのは携帯電話でしょう。あれはレピーターそのものと言えます。携帯端末だけでは出力も小さいですから送信範囲は非常に狭いものになりますが、立地条件の良い所にある程度の中継設備を置くことによってさも自分が遠距離の相手と直接会話(交信)しているように手助けしてくれ

るのです。最近のアマチュア無線機はレピーターモードなるものを装備していたりもするようですが、使用することは避けて下さい。レピーターも1つの無線局ですからむやみに開設することはできません。電気通信管理局の許可が必要になります。よく、展望台や大辻山にレピーターを設置すれば良いとの意見を耳にしますが、そうするのであればそれなりの手続きが必要です。

注 . 1 無線機の操作方法は最低限はおぼえておこう！！

よく「周波数の変更の仕方がわからない」とか「周波数のロックの仕方がわからない」などという会話を耳にします。小難しい操作や機能は別にして、普段使用するような機能については操作をマスターしておいていただきたい。さもないと、万一山沈やアクシデントでこのような操作が必要になった場合、その場でお手上げになってしまう。これでは困る。私は仕事柄、マニュアルや取り説などに縁が深いですが、日本人はあまりにも取り説を読まなさ過ぎる。適当に触って動くからOKじゃないだろうっての！！そこんところをよく考えて無線機やその他の機器を使用して下さい。

CLUB Infomation

・スラローム大会開催！！

今年も恒例のスラローム大会が開催された。今年はいよいよみなさんスノボに入れ込んでいるためか、スキーの部とスノボの部が設けられ、スキーの部は寺内氏、スノボの部は三島氏が優勝した。今後も恒例行事として続けて行く予定ですので今後も皆さんの参加をお待ちいたしております。

・平成8年度 クラブ総会 4月27日に開催

平成8年度クラブ総会は、4月27日(土)19:00～ 山野スポーツセンターで開催されます。詳細な資料は会報に同封いたしましたので、内容をご理解の上ご出席下さるようお願いいたします。なお、当日は同封資料をご持参下さるようお願いいたします。

SCHOOL Infomation

今回は、都合によりSCHOOL Infomationはお休みさせていただきます。

編集後記

今年も冬が終わり、いよいよPARAシーズン到来！今年のコンディションはどうだろうか？

さて、会報編集もようやく約束の4部目を発行(大幅にスケジュールスリップですが)することができました。思えばピンチヒッターで引き受けてそのまま“担当者”になってしまいました。いろんな意見を聞いたり見たりしながら考え、意見を述べさせていただいたことに大変感謝しております。これからもみなさんの意見や投稿をおまちしております。来年度は、強力?!なスタッフを加え、より面白い会報作りを実現するため、あれこれ検討中です。

何はともあれ1年間ご愛読?いただきましてありがとうございました。来年もよろしく願いいたします。

広報委員会・会報編集部